

和名はそれがつけられた学名の方に残すべきか、実物の方に残すべきかが問題であるが、ある植物に全く見当違いな学名を当ててそれに和名をつけることもある。実物の特徴も見て名がつけられているのが普通だから、実体が解るかぎり和名はその方に残すべきだと思う。そうすると *C. cunninghamiana* がトキワギョリュウになり、*C. equisetifolia* は和名がなくなってしまう。しかし、それでは今でも混乱している和名がさらに厄介になる。現在は *C. cunninghamiana* も *C. equisetifolia* もあまり区別せずにモクマオウと呼んでいるので、モクマオウの名は属全体の一般名として使い、種類を区別する時は、現在モクマオウ属の他の種がされている様にモクマオウの前に種名からとった語をつければよいであろう。まれに栽培される *C. glauca* Sieber にはグラウカモクマオウ、*C. cunninghamiana* にはカニンガムモクマオウの名がある。*C. stricta* はマオウヒバの名があるようだが、ストリクタモクマオウとするのがよいであろう。*C. equisetifolia* は種名が長いのでトクサバモクマオウと呼びたい。

(東京大学 理学部附属植物園)

#### ○高等植物分布資料 (123) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (123)

○チャボイ *Eleocharis parvula* Link 宮城県松島町と鳴瀬町の海浜に近い塩性湿地に生育しているチャボイを1987年10月8日に発見した。カヤツリグサ科を研究されている野口達也氏の助言によって、宮城県内でチンママツバイ *E. acicularis* Roem. et Schult. var. *acicularis* を探している内に、偶々出会ったものである。チャボイはマツバイ *E. acicularis* Roem. et Schult. var. *longiseta* Svenson に大変よく似ており、一寸見た所ではなかなか区別し難いものであるが、1) 花柱の基部にはっきりした柱基がなく、また果体との間に節がないこと、2) 果実は倒卵形・褐色・滑澤・格子紋様が見られないこと、3) 地下のストロンの先に特徴的な小塊茎をつけること等によって区別することが出来る。従来は、九州と四国に稀となっている。一方、チャボイ発見の端緒となったチンママツバイは宮城県名取市閑上の休耕田にて1987年10月21日に発見された。宮城県内では初見出である。なお、チャボイ、チンママツバイともに北半球では広く分布するとされており、今後海岸近くの塩性湿地あるいは休耕田のマツバイを再点検すれば、両種の新産地がさらに明らかになるのではないかと考えられる。ここに報告した両種の証拠標本は東北大・理・生物学教室標本室 (TUS) に置く。

(仙台市 聖ウルスラ学院高校 庄子邦光 Kunimitsu SHŌJI)